

「もしも心がすべてなら／いとお金は何になる」という言葉は、フランク・シナトラによる、という通説があります。調べてみると、このセリフは以下の二つで紹介されています。

1) 寺山修司 [1966]『あゝ、荒野』現代評論社、296頁

シナトラの唄ではないが

もしも心がすべてなら
いとお金は何になる

2) 寺山修司 [1977]『ポケットに名言を』角川文庫、143頁)

もしも心がすべてなら
いとお金はなにになる
フランク・シナトラ「唄」

このように寺山修司はこのセリフをフランク・シナトラの歌詞としていますが、シナトラの歌には見当たりません。シナトラのディスコグラフィに「唄」という歌も見当たりません。寺山自身、別の著書ではロシアの詩人、マヤコフスキーの言葉としています（寺山修司 [2005]『さかさま世界史英雄伝』角川文庫、67, 69頁）。おそらく寺山の創作でしょう。

ちなみに作家の倉田英之によれば、寺山修司 [1977] について「調べたら、ハッタリが多いんです（笑）。セリフが適当につなげてあったり、モノによってはそんな言葉を言っていなかったり。」とあります（三上延・倉田英之 [2014]『読書狂の冒険は終わらない!』集英社新書、169頁）。

このセリフをシナトラの歌詞と思っていた人は、寺山のマジックにかかっていたということです。